

## 幼児生活団幼稚園

### いつも私達を見てくださる神様

栗原美枝子

自由学園はキリスト教を主義とした学校であり、生活団幼稚園も子どもが神に守られ、恵みを与えられた存在として捉え、保育者と子どもが共に育つことを願うキリスト教保育を行っている。

「共に生きる、共に育つ 遊びを通して、生活を通して 見えないものに目を注ぐ」※注1ということを中心に置き、私達教職員は日々の生活を子どもと共に大事に過ごしている。

#### I. 身近に感じる神様

2011年にキリスト教保育連盟に加入し、キリスト教保育について教職員が学ぶ機会を少しずつ設けてきた。

この年度から毎日の教職員朝礼の中で祈りをささげてから一日が始まるようになった。毎朝のカリキュラム準備などで保育が始まる前は慌ただしく心も穏やかではないことも多くあったが、朝礼で祈りをささげることによって職員一人の力ではなく神様が守ってくださっていることを心にとめて一呼吸おき、一日を始めることが出来るようになってきた。

幼児生活団幼稚園は2010年度までは行事(クリスマス)で「こどもさんびか」をうたい、普段の生活の中では「こどもさんびか」をうたう機会は少なかった。

「こどもさんびか」には、楽しいメロディーや分かりやすい言葉の曲が多くあるので、2011年度からは最近作られたこどもさんびかも積極的に取り入れて歌うようにしてきた。

聖書の難しいお話を聞かせるのではなく、神様はいつも一緒にいてくださりみんなのことを見守ってくださっている、ということを「こどもさんびか」を一緒に歌うことを通して伝えてきた。

こどもさんびか10番 「ことりたちは」

1. ことりたちは 小さくても おまもりなさる 神さま
2. わたしたちは 小さくても おめぐみなさる 神さま
3. わるいことは 小さくても おきらいなさる 神さま
4. 歌の声は 小さくても よろこびなさる 神さま

※注2

子ども達の大好きな賛美歌の一つである。

この歌をうたいながら子ども達は、

いつも守っていてくださる神様がいらっしゃることを。

僕たち私たちのような小さい子どもや虫たちにもみんな恵みをいただいていること。

悪いことは周りの人が困り、悲しい思いをすること。

などをそれぞれ子ども達が子ども賛美歌から感じとっている。

#### II. 「お話し会」

聖書の中にはたくさんの神様やイエス様からのお話がある。「お話し会」は以下のプログラムで15分程度の短い時間で行っている。

- ・前奏(ピアノで静かな曲を弾く)
- ・さんびか(月毎にうたうさんびか2曲のうち1曲)
- ・お話
- ・お祈り
- ・さんびか
- ・後奏

生活団幼稚園では「神様のお話きかせて」の本を使って旧約聖書や新約聖書のお話をするお話し会を月に一回行っている。

お話の中には伝え方が難しいものもあるが、「お話をする際は話し手の信じる心と話し手と聞き手の暖かい心の交流を話す技術より何よりも大切にしている。」※注3 とのアドバイスをもとに、話す技術にとらわれず心を込めて伝えるようにしている。

お話し会では、3クラス(3歳～6歳)の子ども達が一緒に聞いているので、それぞれの理解力は違うがお話し会の最後にみんなと心を合わせてお話を聞くことが出来てありがとうございます、のお祈りをして神様のお話を聞いたことをみんなで共有し感謝している。

#### III. 保護者向けクリスマス礼拝

お話し会で聞いて来る神様のお話の内容や月ごとにうた

っている「こどもさんびか」の手書き楽譜を手取ることで保護者と園児がお家で神様のお話をする機会となっている。それらを通して保護者も神様を身近に感じるようになってきている。

クリスマスのイエス様のご降誕について詳しく知りたい、という意見もあり、2022年度から保護者向けにクリスマス礼拝を行うようになった。これらの話を聞いてから子ども達が演ずる降誕劇(ページェント)を見ると理解が深まり、クリスマスの迎え方も変化していつているようだ。

#### IV. イエス様の誕生

クリスマスは子ども達にとってはプレゼントをいただきおいしいご馳走を食べる楽しい日の一つである。

生活団幼稚園の子ども達は、クリスマスはイエス様の誕生日であることを知っている。そしてどこで生まれたのか(貧しい汚い馬小屋)、たくさんの人々に祝福されて誕生したこと等のお話を、クリスマス前に一つずつ聞いて心静かにクリスマスを待っている。

幼稚園のクリスマスでは礼拝の中のお話として子ども達が役になりきり降誕劇を演じて、保護者や教職員と共に礼拝を守っている。その後はクラスごとにクリスマスのお祝いを楽しんでいる。お祝いの中ではプレゼントをいただいたりお家の人にプレゼントを贈ったりしながら、子ども達が周りの方々に「ありがとう」を伝え神様やお家の方々に感謝を伝え大切な日として過ごしている。

#### 参考文献

注1 キリスト教保育連盟「キリスト教保育指針[2024年版]」、19頁

注2 『こどもさんびか』日本キリスト教団出版局』、30頁

注3 松隈玲子『神様のおはなしをかいて』日本キリスト教団出版局、199頁